

原田病院外来診察担当表 (2021年●月●日～)

●診察時間:午前9時～12時 午後4時～6時 ●受付時間:午前9時～12時 午後3時30分～6時

☆当院では待ち時間短縮のため午前中の診察は予約制となっております☆

□一般内科外来 □糖尿病外来 □泌尿器科外来 □整形外科外来 □慢性腎臓病(CKD)外来 □在宅血液透析(HHD)外来

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前 来	1診	山下(和)	山下(秀)	重本	西澤	荒川	重本
	2診	土井俊樹	西澤	水入(腎臓内科)	水入(腎臓内科)	山下(秀)	山下(和)
	3診	佐々木	大下	土井俊樹	中野(喜)(呼吸器内科)	大下	佐々木
	4診 DM	内藤(則)	小林(貴)	内藤(則)	向井	向井	DM 広大
	5診	安達	原田	DM/11:00~特定健診 田中	小林(貴)	松坂	(第1・3・5週目)/(第2・4週目) 土井俊樹(整形外科)/岡野(整形外科)
	6診 初診	森井	松坂	大久保	森本	長澤	小林(知)
	7診	藤井(血液内科)	藤田	藤田	藤田	藤田	広大
	8診	—	—	—	—	—	長澤
午後 来	1診	15:30~16:00(予約) /16:00~18:00 荒川	16:00~18:00 有吉	15:00~16:00(PD) /16:00~18:00 土井俊樹	15:30~16:00(予約) /16:00~18:00 大久保	15:30~16:00(予約) /16:00~18:00 弓場	15:00~16:00(予約) /16:00~18:00 有吉
	2診	14:30~16:30(不定期) 呼吸器 濱田	14:00~16:00/16:00~18:00 呼吸器/一般内科 宮本	16:00~18:00 弓場	14:00~16:00 PD 西澤	16:00~18:00 呼吸器 濱田	15:00~17:00 DM 広大
	3診		14:20~16:00 CKD 水入	15:00~18:00(第2・4週) 血液内科 西澤(正)	14:40~16:20 CKD 水入	14:30~16:00 CKD 西澤	16:00~18:00 CKD 森井
	4診	14:30~17:30 (中島)	14:00~16:30(第2・4週) 循環器 中野(由)	13:00~14:00 禁煙外来 内藤(則)	—	—	—
	5診	14:30~17:30 中島	15:30~17:30 原田	16:00~18:00 呼吸器 中野(喜)	—	12:00~14:00 移植シャント外来 札場	—
	7診	13:30~16:00 フットケア 大下	13:30~16:30 リウマチ・膠原病 荒木	14:00~17:00 循環器 秦	—	13:30~17:30 リウマチ・膠原病 舛田	—
	8診	—	14:30~15:00/12:00~14:00 HHD 西澤/移植シャント外来 札場	—	—	—	—

※手術・救急・学会などにより担当医が予告なく変更になることがあります。

あさひ

一陽会広報誌

令和3年
秋号
vol.69



題名「朝焼け」

撮影：一陽会クリニック 北森初男

一陽会

原田病院 院長 重本 憲一郎

〒731-5134 広島市佐伯区海老山町7番10号
TEL 082-923-5161 FAX 082-921-8035

一陽会クリニック 院長 碓井 公治

〒731-5133 広島市佐伯区旭園10番3号
TEL 082-924-0033 FAX 082-924-0037

デイケアあさひ 所長 寺沢 由香

〒731-5133 広島市佐伯区旭園9番31号
TEL 082-943-8610 FAX 082-943-8600

イーストクリニック 院長 有田 美智子

〒732-0814 広島市南区段原南1丁目3番53号 広島イーストビル6F
TEL 082-506-0123 FAX 082-567-7115

横川クリニック 院長 内藤 隆之

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目7番19号 横川メディカルプラザ3F
TEL 082-231-0111 FAX 082-231-0155

グランホームあさひ 施設長 三上 夕子

〒731-5133 広島市佐伯区旭園9番31号
TEL 082-943-7773 FAX 082-943-8600

クローバー訪問看護ステーション 所長 大泉 淳

クローバー在宅介護支援事業所 所長 平田 恵美

〒731-5134 広島市佐伯区海老山町7番10号(原田病院内)
TEL 082-925-6222(訪問看護) 082-925-6221(在宅介護)
FAX 082-925-6223(共通)

ケアレジデンス楽々園 施設長 小嶋 加代子

デイサービス楽々園 所長 西 幸子

クローバーヘルパーステーション 所長 甲斐 慎一郎

〒731-5136 広島市佐伯区楽々園3丁目14番3号
TEL 082-943-8686(ケアレジデンス楽々園)
082-943-8585(デイサービス楽々園)
082-943-7088(ヘルパーステーション) FAX 082-943-8588(共通)

発行 一陽会広報委員会

〒731-5134 広島市佐伯区海老山町7番10号
TEL 082-923-5161(代) FAX 082-921-8035
ホームページ <http://www.icy.or.jp> E-mail info@icy.or.jp (一陽会 広報室)
ご意見・ご質問があれば上記の一陽会広報室までご一報ください。

周辺地図



あとがき

秋に入りやっと過ごしやすくなりましたが、これからは花粉に悩まされる季節でもあります。◆秋にも花粉症があります。春の花粉症はスギ・ヒノキなどの樹木系花粉が中心ですが、秋はブタクサ・ヨモギなど雑草系の花粉が中心になります。背の高い樹木の花粉は数百キロも飛散し被害を拡大させるのに対し、雑草系の花粉は数キロしか飛散しないため発症者が比較的少なく春ほど注目されていませんが、大規模な草原が広がる欧米では毎年社会問題化しているそうです。◆樹木花粉と雑草系花粉はアレルギーの原因となるタンパク質の構造がよく似ており“共通抗原性”があります。スギ花粉とブタクサ花粉では約75%が共通抗原性を持っているとされ、スギ花粉症の方の75%はブタクサ花粉でも発症する可能性があります。◆新型コロナの流行が予断を許しません。せきや倦怠感といった花粉症にもある症状を感じた場合は人と接触することによって不安を抱いてしまいます。安心して日常生活を送るためにも秋花粉対策をしっかり心掛けましょう。

一陽会 基本理念

- 1 愛情ある奉仕の心を以て地域医療・介護に貢献する。
 - 2 和衷協同して技術の向上と人格の形成に努める。
 - 3 誠心と創意工夫を以てその職責を全うする。
- 一陽会職員は、「愛・和・誠」を是訓として、日々の診療にあたっております。

患者の権利

- 1 患者は人としての尊厳を維持する権利を有する。
一陽会の職員は患者のプライバシーの保護に努めるとともに、人としての尊厳を重視する。
- 2 患者は納得できる医療を受ける権利を有する。
一陽会の職員は患者に必要な情報提供を行い、インフォームドコンセント(説明と同意)に努める。
- 3 患者は医療機関選択の自由の権利を有する。
患者にはいかなる治療段階においても他の医師等の意見をもとめる権利(セカンドオピニオン等)があり、一陽会はこのことを支援する。

原田病院 基本方針

- 1 地域ニーズに応える地域密着型の病院をめざす。
すなわち、高齢化が進む今日、高齢者の急性期医療を担うという当院の役割を明確にする。その為に、病診・病病連携を密にし、紹介患者の受け入れ、及び回復後の逆紹介を励行する。
- 2 医療、介護、福祉の関連機関と協力して、在宅医療を支援・推進する。
また医療の質を高めることにより早期社会復帰、平均在院日数の短縮をはかり、急性期型病院を維持する。
- 3 腎疾患、糖尿病、透析を中心とした急性期医療を提供する。
特に透析医療では、当地区において中心的役割を果たすよう努力する。
- 4 患者中心の医療を目指す。
すなわち患者の権利、尊厳、利益、希望を尊重した医療を実現するため、相談窓口、検討機関を広く設け、積極的に実施する。

呼吸器内科 常勤医師就任

原田病院では4月より、呼吸器内科の常勤として中野喜久雄医師が就任しております。



中野喜久雄 医師

広島大学 医学部 1980年卒
 医学博士(1989年)
 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
 日本呼吸器学会専門医・指導医
 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医

わが国の65才以上の高齢化率は世界1位であり、それに伴い肺炎と誤えん性肺炎の患者さんが増えています。そのうち腎臓病や糖尿病などの病気を持ち合わせている肺炎患者さんは、病状が急激に悪化しますので、当院では呼吸器内科と各診療科が連携して早期からの治療に当たっています。さらに当科では患者・家族の皆さんとの対話を重視し、肺がん、肺気腫、間質性肺炎などの呼吸器の病気に対する新たな治療法も含め、患者さんが納得できる医療を目指してまいります。

呼吸器内科の対象となる主な症状

息切れ、すぐに疲れる、咳や痰、
 急に食欲が無くなった、微熱、
 昼間の強い眠気や大きなイビキ 等



●呼吸器内科 外来診察

中野喜久雄医師

毎週 水曜日 16時～18時
 木曜日 9時～12時

濱田泰伸医師

毎週 金曜日 16時～18時
 月曜日 14時30分～16時30分(不定期)

宮本晴子医師

毎週 火曜日 14時～16時

看護部 看護補助者 ご紹介

一陽会では法人全体で、現在17名の看護補助者が勤務しています。



看護補助者は、注射や採血などの医療行為を行うことはありませんが、医療チームの一員として看護師とともに、患者さんが安心して治療を受けたり入院生活を送れるように環境整備や療養のお手伝いをする大切な役割を担っています。



主な業務としては、医療器具の準備・片付け・洗浄・管理、また患者さんの着替えの手伝い、検査への付き添い、食事・排泄・入浴の介助、車椅子移動の補助なども行います。

多職種で患者さんを支えていくうえで、看護補助者の存在はなくてはならないものとなっています。

一陽会では看護補助者として働きたい方を求めています。関心のある方は原田病院看護部までご連絡ください。 [連絡先：kango-j@icy.or.jp](mailto:kango-j@icy.or.jp) (原田病院 看護部)



新型コロナウイルス ワクチン接種

一陽会の医療機関では、5月より新型コロナウイルスワクチンの接種を開始いたしました。できるだけ早く希望されるすべての患者さんに接種していただくため、平日の来院が困難な患者さんを対象に7月からは日曜日の接種も開始し、現時点でほぼすべての対象患者さんへの接種が完了いたしました。

●日曜日の接種会場の様子



月下美人 開花 ～グランホームあさひ～

グランホームあさひの月下美人が今年も開花しました。1年に一度、一晩だけしか咲かない花です。今年は特にたくさんのお花が咲き、開花している間、施設内にはとてもあでやかな香りが漂っていました。

花言葉は「あでやかな美人」「はかない美」です。とても美しい花が咲きますが、その寿命は短く、育てて花を咲かせることも大変であることから、そのはかなく美しいさまに由来しているとされています。

来年もきれいな花をたくさん咲かせ、入居者の皆さんに喜んでいただけるよう、心を込めて手入れをしてまいります。





認定理学療法士（内部障害分野・代謝領域）
岸田 裕司

認定理学療法士と聞いてピンとこない方が多いのではないのでしょうか。認定理学療法士制度は、自らの専門性を高め、専門的臨床技術の維持、社会・職能面における理学療法の専門性を高めていくことを目的とした公益社団法人日本理学療法士協会が定めた制度です。認定理学療法士には7つの専門分野に23の領域があり、その中から一つを選択します。理学療法士免許取得後、教育プログラムを終了、専門分野への登録、研修会や学会参加等の基準を数年かけて満たし、認定試験に合格し認定を受けます。

【領域紹介】内部障害分野・代謝領域とは

内部障害分野とは、心臓、呼吸、腎臓などの身体内部の臓器の障害、呼吸・循環・代謝系の障害を指します。生活習慣病の予防を含めて、心不全や慢性呼吸器疾患、糖尿病（合併症含む）を有する方々が対象となります。代謝領域とは聞き慣れない言葉ですが、糖尿病関連疾患（合併症含む）を対象とした領域です。たとえば、糖尿病から血糖コントロールが必要となった方や、糖尿病腎症から透析療法を行われている方、糖尿病性の足病変から歩行が難しくなった方の運動療法やリハビリがその範疇となります。

認定理学療法士（代謝）の役割

糖尿病の治療は、医師の指示のもとに薬物療法、食事療法、運動療法の3本柱を中心に療養指導、生活習慣の改善指導、精神・心理的なサポートなどの包括的なプログラムによって行われます。そのため、治療・療養に関わる医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、リハビリ専門職、社会福祉士、介護福祉士、ケアマネージャーの専門職が連携をとり、それぞれの専門性を活かし協働していくことが重要です。この領域での理学療法士の役割は運動療法の指導とその評価が中心となり、運動療法の実施に際して患者さんの病態や病期の確認だけでなく、病状や血糖コントロール状態に合わせて運動プログラムを立案します。また、実際の日常生活で実践しやすいよう、患者さんの社会的環境や心理状態を把握しながら介入していきます。

糖尿病は血糖コントロールが不安定であったり、罹患期間が長期になると合併症が問題となってきます。合併症としては、糖尿病性神経障害、腎症、網膜症が三大合併症として有名ですが、壊疽、脳卒中、虚血性心疾患に加えて、認知症や骨粗鬆症、歯周病も糖尿病関連疾患として注目されています。これらの合併症を罹患した患者さんは、高齢であったり、入退院を繰り返していたり、若年であっても身体機能の低下から日常生活に不安を抱えている方が多いように感じます。そのような患者さんに対しては、医師のリハビリテーション指示のもと、合併症、血糖コントロール状態に留意しながら運動療法のみならず、自宅での生活を円滑に行え、

普段の生活に戻ることを目標に、基本的な動作練習、歩行練習（歩行補助具の使用など）を実施していきます。必要であれば家屋調査を行い、手すりの設置や動線の確認、安全な移動方法を提案していきます。以上のような流れで運動療法・リハビリテーションを進めています。また、他職種との関わり・連携を大切に、この分野で少しでも多くの患者さんに支援していけるよう努めてまいります。

認定理学療法士としての今後の課題

近年、糖尿病患者さんは、同年代の方と比較して下肢筋力の低下、足の関節の可動域制限があることが報告されています。私は一陽会でリハビリ業務に携わって9年、認定理学療法士を取得して4年になりますが、そこで担当させて頂いた糖尿病患者さん・糖尿病を患っている透析患者さんではその傾向が強いと感じています。下肢筋力の低下、足の関節の可動域制限に至る要因としては、糖尿病性の神経障害が深く関わっており、放っておくと足の指や足部の変形、胼胝（たこ）ができやすくなることが報告されています。これに、足の血流が悪くなる末梢動脈疾患と足の傷からの感染が加わると足部潰瘍となり、進行すると壊疽に至ります。こうなると歩くことが難しくなるだけでなく日常生活は制限され、場合によっては、手術により下肢を切断しなくてはならなくなる可能性が高くなります。実際に、足病変の治療が長期にわたり、入退院を繰り返すなかで全身的な筋力・体力の低下から自宅での生活が難しくなる患者さんに出会うことがあります。これらの過程は糖尿病足病変と呼ばれており、予防が重要となります。予防に関してはフットケアの分野となり、現在は医師、看護師を中心に行われていますが、足の機能改善を目的としたリハビリの必要性も報告されています。具体的には、足の関節機能を改善するストレッチやレジスタンス運動、胼胝を形成しないための歩行指導・フットウェア選定などがあげられます。この分野には、私たち理学療法士も貢献できると考えており、糖尿病患者さんの足を守る、歩行を守ることを目標に、これからもチームの一員として関わってまいります。

●足病変

糖尿病神経障害を持っている方は足底など末梢感覚が鈍くなり、小さな傷などに気づかない方がいます。糖尿病患者さんは傷が治りにくく、感染も起こしやすいため小さな傷から壊疽を起こし切断へと発展してしまいます。感覚の評価ではIpswich Touch Testが道具もいらず簡便に評価可能です。

〈Ipswich Touch Test〉

方法：「患者に閉眼してもらい、第1・3・5趾の指先を、検者の指先で1-2秒軽く触れる」

6か所中2か所以上触知困難の場合陽性

非医療者によるチェックでも感度78%、特異度94%で下肢の感覚鈍磨を検査可能。³⁾



出典/1) 日本糖尿病学会. 糖尿病治療ガイド2018-2019:文光堂:2018. P88-89

2) 日本糖尿病療養指導士認定機構. 糖尿病療養指導ガイドブック2016:メディカルレビュー社:2016. P59-67

3) Sharma S, Kerry C, Atkins H, Rayman G. The Ipswich Touch Test: a simple and novel method to screen patients with diabetes at home for increased risk of foot ulceration. Diabet Med. 2014;31: 1100-1103.

第66回 (社)日本透析医学会学術集会

会期：2021年6月4日(金)～6日(日)

場所：パシフィコ横浜(神奈川県)現地開催とLIVE配信のハイブリット開催

2021年6月4日(金)～6日(日)、パシフィコ横浜およびLIVE配信のハイブリットで開催された「第66回 日本透析医学会学術集会」に、一陽会からシンポジウムの司会・ワークショップおよび一般演題、あわせて12演目の研究発表を行いました。今回の研究の成果を今後の診療に役立てていくよう努めてまいります。

COVID-19対策におけるオーバーナイト透析中止が患者に及ぼす影響

医療法人一陽会 原田病院血液浄化部¹⁾、看護部²⁾、医局³⁾

○谷 雅和¹⁾、加島みゆき¹⁾、福馬美保²⁾、森田直美¹⁾、藤川 博²⁾、土井俊樹³⁾、水入苑生³⁾、重本憲一郎³⁾

【はじめに】 当院はCOVID-19感染対策の一環として約2か月間オーバーナイト透析(NHD)を中止した。その間の患者の体調・生活面の変化を検討した。

【方 法】 NHDから夜間透析へ移行の変化を患者11名にアンケート調査も含め調べた。

【結 果】 体調への影響が出た患者は7名、生活・仕事への影響が出た患者は10名、全員がNHDへ戻りたいと答えた。Kt/Vは 3.17 ± 0.53 から 2.12 ± 0.33 、カリウム値は 4.61 ± 0.61 から 5.05 ± 0.98 、リン値は 4.94 ± 0.96 から 6.53 ± 1.45 へ変化した。NHD中止期間中COVID-19感染者はいなかった。

【考 察】 透析時間が短縮されることで透析効率が低下し掻痒感・倦怠感が出現したと考えられる。透析時間帯の変更により仕事と透析の両立が難しく転院した患者もいた。

【ま と め】 COVID-19感染対策としてのNHD中止は患者の体調・生活面に悪影響を与えた。

発表者一覧

■セッション シンポジウム20

高齢透析患者の抱える諸問題への取り組み

○司会：水入苑生

■シンポジウム・ワークショップ

血液透析患者におけるvitamin K 値と冠動脈石灰化・死亡リスク

○水入苑生、西澤欣子

多職種連携で支える高齢者のPD医療

医療法人一陽会 原田病院¹⁾、広島大学病院 腎臓内科²⁾

○西澤欣子¹⁾、土井俊樹¹⁾²⁾、水入苑生¹⁾、正木崇生²⁾

■研究発表

維持透析導入時のCHA2DS2-VASc scoreは3年死亡と関連する

医療法人一陽会 原田病院¹⁾、広島大学病院 腎臓内科²⁾

○大久保愛子¹⁾、森井健一¹⁾²⁾、土井俊樹¹⁾²⁾、西澤欣子¹⁾、重本憲一郎¹⁾、水入苑生¹⁾、正木崇生²⁾

透析患者の死亡リスク因子の検討

○菅 由香里、稲本健司、本丸忠生、水入苑生、重本憲一郎

血液透析外来HCVキャリアの現状と直接作用型抗ウイルス剤(DAA)療法受診勧奨への取り組み

○木村由紀、山形智子、中村健一、小野亮一、手島和子、丹治知恵、碓井公治

低栄養透析患者におけるOHDFとHD (AN69膜)の併用効果

○濱元リ工、榎谷佳祐、中村健一、山形智子、小野亮一、手島和子、本丸忠生、丹治知恵、碓井公治

DCS-200Si静脈回路経変更による効果

○渡橋 梢、北川亜季、廣瀬 彩、田原千秋、田中秀人、松井未紀、烏田一義、中園博司、有田美智子、頼岡徳在

当院におけるエコー下PTA導入後の検証

○内藤隆之、加藤曜子、木谷博之、昌木秀介、錦郡 司、伊藤裕子、斎藤智子、西澤欣子、山下和臣、重本憲一郎

広島大学病院腎臓内科：正木崇生

看護師におけるエコー下穿刺の現状 ～対応できるスタッフ増加を目指して～

○藤川 智、中村直正、齋藤智子、昌木秀介、新田千恵美、宮本弘美、加藤曜子、内藤隆之

当院におけるエコー下穿刺時の機種選択の検討

○吉田 綾、木谷博之、昌木秀介、中村直正、齋藤智子、本丸忠生、新田千恵美、加藤曜子、内藤隆之

コラム いきいきさん

グランホームあさひ
3.4階主任 磯田 啓輔



入居者さまとご家族の信頼関係の構築を第一に考えながら日々業務に取り組んでいます。

平成25年に入職し、グランホームあさひで勤務しています。現在はコロナ禍の影響で配属当初に比べると日々の業務も様変わりし、入居者さまにおいてはご家族との面会もままならない状態が続いています。外出・外部レクも大半が中止となり、



行えるアクティビティも限られる事から認知症の進行が懸念されていますが、職員達は個別もしくは少人数でも刺激となるものを率先して取り入れるなど日々奔走してくれています。入居して来られる方々は出会うべくして出会ったと思わせる出来事が多く、関わりの中から元気を頂く事も非常に多いので、恩返しとまではいきませんが日々の楽しみをひとつでも多く提供できるよう、これからも職員一丸となって努めて参ります。

健康レシピ すき焼き風コロケ



じゃがいもはビタミンCが豊富に含まれています。ビタミンCは皮膚や粘膜を丈夫に保つ効果や、抗酸化作用、免疫力を高めるなどの効果があります。ビタミンCは体内で合成できない栄養素のため、毎日食事から摂取する必要があります。ビタミンCを多く含む食品は果実類、野菜類、いも類です。

ビタミンCは水に溶けやすく、熱に弱い性質をもっています。しかし、じゃがいもに含まれるビタミンCはデンプンで覆われているため加熱しても壊れにくい特徴があります。また、電子レンジで加熱することにより、栄養の損

失を少なく調理することができます。

この時期のじゃがいもは、ほくほくとした食感が特徴です。秋をイメージし、甘辛くすき焼き風に味付けしたお肉を混ぜてコロケにしてみました。ぜひ、お試しください。

エネルギー：356Kcal/
たんぱく質：11.0g/脂質：17.2g/塩分：0.8g

《作り方》

- ①玉ねぎを横半分に切り、縦に薄切りにする。牛肉は1cm程度に切る。フライパンにサラダ油を入れ、中火でたまねぎ、牛肉を入れ、肉の色が変わるまで炒める。調味料Aを加え、汁気がなくなるまで炒める。
- ②じゃがいもは皮をむき、さっと洗う。1個ずつラップに包み、電子レンジで600W 5分程加熱する。ボウルに入れ、フォークなどで細かくつぶし、①を加えて良く混ぜ合わせる。
- ③②を6等分にして厚さ1.5cm程度の円形に整え、小麦粉、溶き卵、パン粉の順に衣をつける。フライパンにサラダ油を2cm程度入れ、中温(170~180℃)に熱し、コロケを入れ、時々返しながらかんがり色づくまで揚げる。取り出して油をきり、器に盛り、付け合わせの野菜を盛る。

《材料(3人分)》

じゃがいも	2個(約300g)
玉ねぎ	1/4個(約50g)
牛切り落とし肉	80g
サラダ油	適量
「酒	大さじ2(30g)
しょうゆ	小さじ2(12g)
砂糖	小さじ2(6g)
「水	大さじ1(15g)
小麦粉、パン粉	適量
溶き卵	適量
サラダ油(揚げ油)	適量
お好みの野菜	

栄養士 大谷 梨乃